劇団文化座公演
佐々木愛 女優生活６０年企画

「ほれっ！ 多喜二！ もう一度立って見せねか！ みんなのために、もう一度立って見せねか！」

母

原作：三浦綾子

小林多喜二
《藤原章寛》

題字：本橋佳園　写真：山本桃子

脚本：杉浦久幸　演出：鵜山仁

出演：佐々木愛　姫地実加　高橋未央　藤原章寛　萩原佳央里　市川千紘　神﨑七重　小佐井修平

佐々木愛 女優生活６０年企画

劇団文化座公演

母

＜STAFF＞
美術＝乘峯雅寛　衣装＝岸井克己　照明＝古宮俊昭
音楽＝高崎真介　音響＝原田耕児

協力：三浦綾子記念文学館

＜あらすじ＞

「ほれっ！ 多喜二！ もう一度立って見せねか！ みんなのために、もう一度立って見せねか！」

1933年、2月20日。小説家小林多喜二が特高警察によって虐殺された。拷問跡の残る遺体に、多喜二の母セキは寄り添い、ずっと頬を撫で擦っていた。貧しさの中、学校へも通えず、13歳で結婚し、懸命に働き六人の子を育てたセキ。そんな母の姿を見ながら、小林多喜二は小説を書いた。

貧しく虐げられた人たちのことを思い、書き続けた。

晩年、セキは息子多喜二を語る機会を得る。母さんを人力車に乗せて、この通りを走らせてやりたいと願った、多喜二青年の夢と愛の軌道——。

無学の母は、問われるままに語り始める……。

小林セキ　佐々木愛

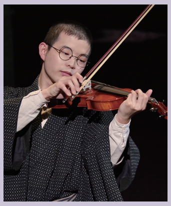
チマ　姫地実加

タミ　高橋未央

ツギ　萩原佳央里

幸　市川千紘

三波　神崎七重



三吾　小佐井修平

小林多喜二　藤原章寛

初演時アンケートより

- 小林多喜二のことはあまり知りませんでしたが、公演を見てあんなにも仲の良い家族であったことは初めて知りましたし、多喜二は本当に優しいお兄さんでした。自分の理想や思いで突き進む多喜二を、何があっても支える佐々木愛さんが演じた母の愛を見て、泣きそうになりました。改めて母の偉大さに気づきました。
- 心が震えました。小林多喜二には暗い辛い印象を持っていましたが、日常の家庭の和が描かれていて、気持ちが癒されました。愛さんの、語り、声、やわらかく、心の底に響きました。